

## ナシヒメコンによる西洋なしのナシヒメシンクイ防除方法

西洋なし圃場でナシヒメコンを4月下旬に設置することにより、栽培期間を通じて主要な加害種であるナシヒメシンクイの密度低減を安定的に図ることができます。

ナシヒメコンは、ナシヒメシンクイに対して交信かく乱法を行うための防除薬剤です。交信かく乱法は人工的に合成した害虫の性フェロモンを圃場内に充満させ、雌雄の交尾を阻害し、産卵を減らして次世代の密度を減らす防除法です。本剤には直接的な殺虫効果がないため、殺虫剤による防除は必要になります。

### 1. ナシヒメコンの設置方法

- (1) 設置時期：ナシヒメシンクイ越冬世代成虫発生初期（4月下旬）
- (2) 設置本数：10a 当たり 100 本
- (3) 設置方法：園内均一になるように、目通りの高さの枝に巻き付けるか挟み込むように取り付ける（写真1）。



写真1 ナシヒメコン

#### (4) ナシヒメコン設置上の留意点

1. 処理面積は広い方が効果は安定する。
2. 交信かく乱剤の有効成分は空気よりも重いため、傾斜地や起伏の多い所では傾斜上部の設置本数を1～2割多くする。
3. 結果枝では果実の肥大に伴って枝が下がってくる場合があるため、手の届くだけ高い位置に取り付ける。
4. 交信かく乱成分の放出が不安定になるため、高温になりやすい金属支柱等への設置は避ける。
5. 風の強い場所で使用する場合は、交信かく乱成分の流亡を防ぐため、防風ネットなどを設置し効果の安定を図る。
6. ナシヒメシンクイの発生密度が高いと雌雄の遭遇率が高くなり、交尾阻害効果が期待できない。
7. ナシヒメシンクイ以外の害虫の発生が見られた場合には、防除を行う。
8. 毎年継続して設置することにより、ナシヒメシンクイの発生密度を安定的に低減できる。

### 2. ナシヒメコンの効果持続期間

項目	ナシヒメコン	コンフューザーN(参考)
ナシヒメシンクイに対する効果の持続期間 <sup>a)</sup>	130～150日程度	100～120日程度
設置本数/10a	100本	150～200本
販売価格/10a <sup>b)</sup>	4,000円前後	8,500円前後(150本) ～11,000円前後(200本)

a) 効果の持続期間は、気象や設置条件によって変わる。

b) 平均的な価格。

### 3. ナシヒメコンの適用内容

薬剤名	適用作物名	対象害虫名					
		ハマキムシ類			シンクイムシ類		
		ミダレカク モンハマキ	リンゴコカク モンハマキ	リンゴモン ハマキ	モモシン クイガ	ナシヒメ シンクイ	スモモヒメ シンクイ
ナシヒメコン	果樹類	-	-	-	-	○	○
コンフューザーN (参考)	果樹類	(○)	○	○	○	○	○

注) ○：適用あり、-：適用なし、(○)は適用はないが効果が期待できる。

### 4. 県内の主要果樹を加害するシンクイムシ類の種構成

加害種名	西洋なし	りんご	もも	すもも
ナシヒメシンクイ	◎	△	◎	○
モモシンクイガ	△	◎	◎	○
スモモヒメシンクイ	-	△	-	◎

注)◎：最重要種、○：重要種、△：密度が高いと被害発生、-：加害なし

### 5. ナシヒメコン実証試験結果の概要

#### 【試験方法】

- ・試験年次：2014年、2015年
- ・実証圃場：天童圃場（1ha）、対照圃場：寒河江圃場（30a）
- ・供試薬剤：ナシヒメコン
- ・設置時期：4月下旬
- ・設置本数：10a当たり100本（現地慣行防除体系に追加設置）
- ・調査方法：各圃場にナシヒメシンクイのモニタリング用フェロモントラップを設置し、4月中旬～9月末までの総誘殺数と収穫後にシンクイムシ類による被害果数を調査した。

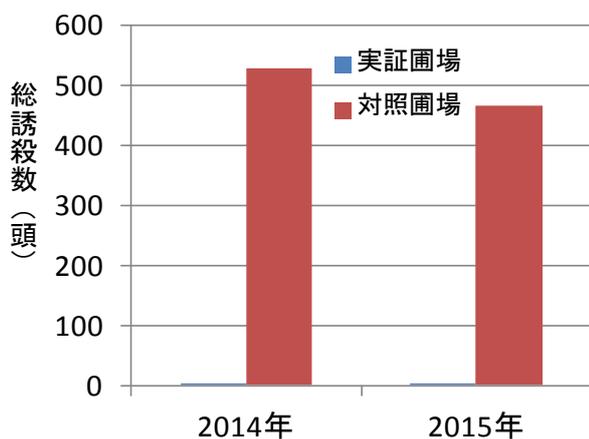


図1 トラップによるナシヒメシンクイの総誘殺数

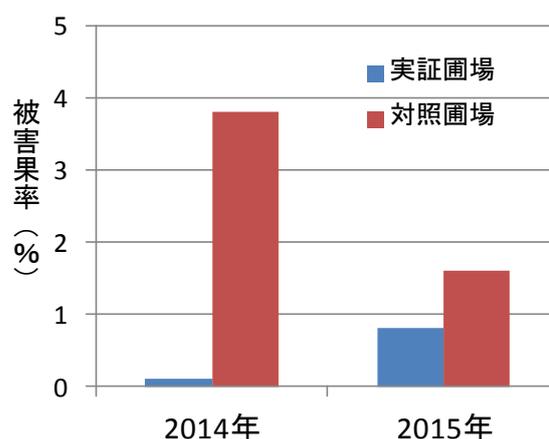


図2 シンクイムシ類による果実被害

#### 【試験結果】

- ・2カ年ともナシヒメコン設置後、ナシヒメシンクイの誘殺は見られず誘引阻害効果があった(図1)。
- ・両圃場でほぼ同様な薬剤防除を行ったが、シンクイムシ類の被害果は実証区が対照区より少なく、ナシヒメコンによる防除効果が認められた(図2)。

問い合わせ先 山形県病害虫防除所

執筆者：伊藤慎一、岡本真理 TEL：023-644-4241 e-mail：ybyogaichu@pref.yamagata.jp